

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城東中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

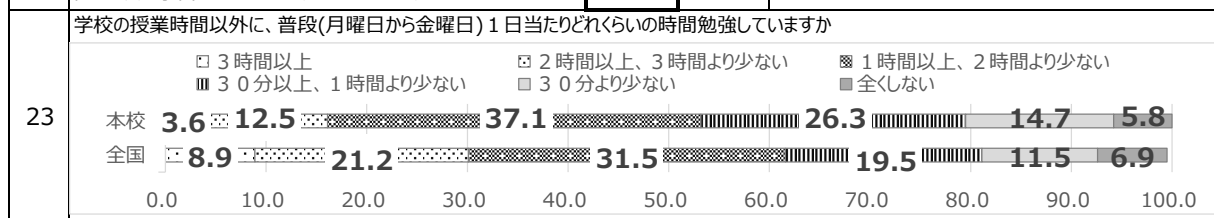
《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	83.0	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	86.6	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	93.3	92.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	81.7	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	81.7	79.0



本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎授業では、課題解決に向けて、自分で考え自ら取り組む姿勢が見られます。また、協動的な学びを通して課題解決に取り組むことができます。
- ◎分からない問題があったときに、自分に合った学び方を選択し、工夫する姿が見られます。
- 家庭学習の時間が30分未満の生徒が2割おり、家庭学習が習慣化するような働きかけが必要です。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	88.4	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	61.2	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	89.7	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	95.1	91.0

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.0	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	78.1	72.3

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

- ◎多くの生徒が学校生活を前向きにとらえ、自己を肯定しながら学校生活を送っている様子がうかがえます。
- ◎人や地域・社会の役に立ちたいという思いをもつことができています。
- 現在の学びを将来の夢や目標につなげるための支援が必要です。

調査結果を受けて

【学校では】

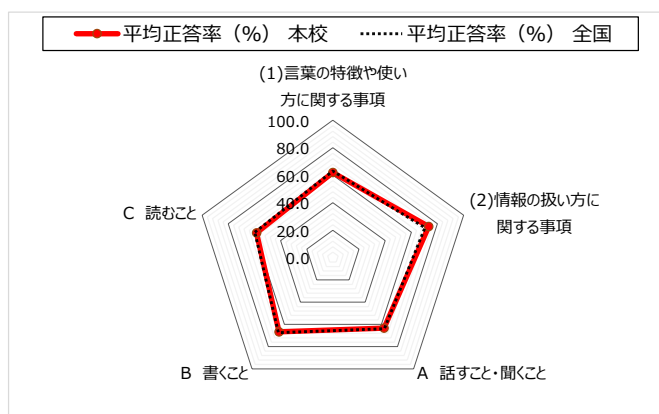
- 学校教育目標「夢実現◇成長の根幹づくり」に向け、学校教育活動全体において、個に応じた出番・役割を設定し、生徒の頑張りや成果を承認しながら自己肯定感や自己有用感を高めていきます。
- 将来への見通しを持つことができるようにキャリア教育の充実を図っていきます。
- 子ども自身が考え、選択し、対話を通して納得解を見いだしていく経験を大切にします。
- 学習を振り返る機会を充実させ、自分に合った学び方を考え、調整する力を育みます。

【ご家庭では】

- 会話の中で、「将来、何になりたいのか」「どのような職業に興味があるのか」など、お子様の願いや考えをじっくり聞いたり、話し合ったりする機会を増やしていただければと思います。
- 規則正しい生活を習慣化し、家庭学習を定着させることは大切なことです。自分で決めて学習に取り組むことができるように、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 結果だけでなく、考えたことや挑戦したことにも目を向け、認め励ます声かけをお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	61.9	63.0
	(2)情報の扱い方に 関する事項	73.3	70.4
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	63.3	63.9
	B 書くこと	66.7	67.4
	C 読むこと	58.4	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	73.2	72.7
短答式	54.2	55.8
記述式	42.1	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「話すこと・聞くこと」「書くこと」の内容領域では、全国平均との有意差はなく、各領域の力が概ね身についています。

◎「知識及び技能」の情報の扱い方に関する事項では、情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、利用することができています。

●読み取った内容を基に、自分の考えを整理したり、根拠を明確にして表現したりする活動を充実させる必要があります。「記述式」の問題形式において、無回答率が高かったことも課題です。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	73.3	70.4
4 一	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができるかどうかをみる	77.3	71.6

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 一	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	30.2	39.8
4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするかどうかをみる	34.2	38.9

調査結果を受けて

【学校では】

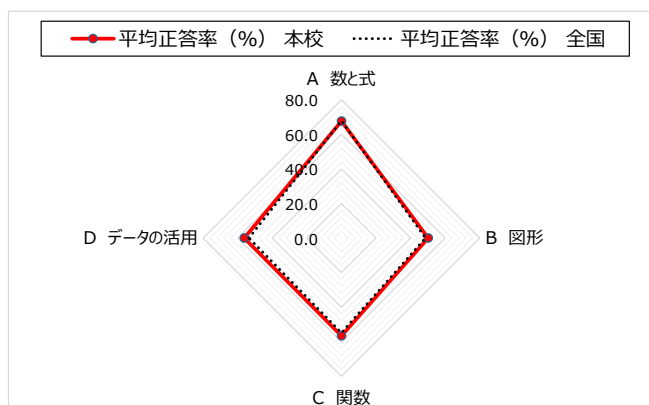
- 限られた時間の中でも自分なりの意見や考えをまとめ、相互評価や検討を加える中で、考えの根拠を明確にして文章を記述・発表するような場面を日々の授業でできるだけ多く設定していきます。
- 自ら課題を設定し、学び合いの中で相互に表現の内容や説得力を高め合うような主体的な学習への取り組みを促していきます。

【ご家庭では】

- 身近な事柄について自分の考えをもち、話し合い表現するような家族のコミュニケーションを大切にしてください。その際「何となく」や「別に」で終わらせないように、会話が広がる工夫をお願いします。
- 身近にたくさんの活字情報がある環境が考える力を伸ばすことに役立ちます。家庭の中で活字に触れる環境を積極的に作っていただきたいと思います。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	67.6	67.8
B 図形	50.2	48.7
C 関数	56.6	54.8
D データの活用	56.2	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	59.9	59.3
短答式	65.0	64.2
記述式	42.3	39.1

結果 ※◎（強み）、●課題

◎「図形」、「関数」、「データの活用」の内容領域で、全国平均を上回りました。また、問題形式別の正答率においては、どの形式でも全国平均を上回りました。

◎場合の数を樹形図などを利用して整理し、確率を求める問題では、正答率が全国平均を10ポイント上回りました。

●数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決方法を数学的に説明する問題では、無回答の割合も高く、課題が見られます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
5	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる	70.2	60.2
7（1）	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる	80.0	75.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
7（2）	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	33.3	33.9
9（3）	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	33.3	31.9

調査結果を受けて

【学校では】

○与えられた資料から必要な情報を適切に読み取ることや、問題解決の方法を数学的に説明する場面を、日々の授業で設定します。また、式やことばを使って論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

○様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。生徒間で質問・疑問が出やすい授業体制を作るようにします。

【ご家庭では】

○お子様の週末課題などの宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。

○積み重ねに必要な教科ですので、難易度にとらわれず、易しいと思われる内容も丁寧に取り組んで定着させることが重要です。特に数学で使う用語について、確実に復習、確認するように声をかけてください。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	468
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.2 / 2	2.1 / 5	0.6 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
2	聞くこと	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
16	話すこと〔発表〕	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
13	書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる
15 (2) b	話すこと〔やり取り〕	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる

結果 ※◎（強み）、●課題

◎ 日常的な話題について、目的に応じて必要な情報を聞き取ることや、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を聞き取る力が身についています。

◎ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話す姿勢がみられます。

● 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く場面を充実させる必要があります。また、語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、相手とやりとりしながら会話する実際のコミュニケーションにおいて活用することも課題です。

調査結果を受けて

【学校では】

○ 文章を読んで要点を捉え、自分の考えとその理由を書かせる活動を行います。書いた文章に対して生徒同士でコメントしたり教師がフィードバックを与えて表現を考えたりすることで、文章を推敲する力を養います。

○ 話すこと〔発表〕の活動を繰り返し行い、発話量を増やす中で内容や構成の整理を行わせます。また、話すこと〔やり取り〕の活動を充実させるために、ペアでやり取りを行った後に、場面や状況に応じた表現を共有し、相手を変えてやり取りを繰り返す場面を設定します。

【ご家庭では】

○ 「伝えることを楽しむ」経験が増えるように、お子さんの挑戦を温かく見守ってください。英語で学んだことを話題にするなど英語に親しむ機会を大切にしてください。

○ 英語を「正しく答える」ことだけではなく、不完全でも「自分の意見を英語で表現しようとする姿勢」に目を向けて、認めたり励ましたりしてください。